

加法(2)

異なる符号の数の加法

たし算のことを**加法**といい、たし算の計算結果のことを**和**という

異なる符号の2数の和

-**符号**:絶対値の大きい方の符号

-**絶対値**:絶対値の大きい方から小さい方をひいた差

-絶対値が等しく、符号が異なる2数の和は**0**

(正の数)+(負の数)

(負の数)+(正の数)

ひき算!

<例> (正の数)+(負の数)

絶対値は3と7

$$(+3) + (-7)$$

$$= -(7 - 3)$$

$$= -4$$

絶対値の大きい方の符号

(負の数)+(正の数)

絶対値は4と2

$$(-4) + (+2)$$

$$= -(4 - 2)$$

$$= -2$$

絶対値の大きい方の符号

<確認問題>

次の計算をせよ。

(1) $(+4) + (-8)$

(5) $(-18) + (+18)$

(6) $(-66) + (+77)$

(2) $(+9) + (-7)$

(7) $(-21) + (+19)$

(3) $(+6) + (-18)$

(8) $(-328) + (+199)$

(4) $(-7) + (+8)$

(10) $(+99) + (-99)$

加法(2)

異なる符号の数の加法

たし算のことを**加法**といい、たし算の計算結果のことを**和**という

異なる符号の2数の和

-**符号**:絶対値の大きい方の符号

-**絶対値**:絶対値の大きい方から小さい方をひいた差

-絶対値が等しく、符号が異なる2数の和は**0**

(正の数)+(負の数)

(負の数)+(正の数)

ひき算!

<例> (正の数)+(負の数)

絶対値は3と7

$$(+3) + (-7)$$

$$= -(7 - 3)$$

$$= -4$$

絶対値の大きい方の符号

(負の数)+(正の数)

絶対値は4と2

$$(-4) + (+2)$$

$$= -(4 - 2)$$

$$= -2$$

絶対値の大きい方の符号

<確認問題>

次の計算をせよ。

(1) $(+4) + (-8)$

$$(+4) + (-8)$$

$$= -(8 - 4)$$

$$= -4$$

(2) $(+9) + (-7)$

$$(+9) + (-7)$$

$$= +(9 - 7)$$

$$= +2$$

(3) $(+6) + (-18)$

$$(+6) + (-18)$$

$$= -(18 - 6)$$

$$= -12$$

(4) $(-7) + (+8)$

$$(-7) + (+8)$$

$$= +(8 - 7)$$

$$= +1$$

(5) $(-18) + (+18)$

$$(-18) + (+18)$$

$$= 0$$

(6) $(-66) + (+77)$

$$(-66) + (+77)$$

$$= +(77 - 66)$$

$$= +11$$

(7) $(-21) + (+19)$

$$(-21) + (+19)$$

$$= -(21 - 19)$$

$$= -2$$

(8) $(-328) + (+199)$

$$(-328) + (+199)$$

$$= -(328 - 199)$$

$$= -129$$

(10) $(+99) + (-99)$

$$(+99) + (-99)$$

$$= 0$$